

浄化精誠について

金斗衡教会長「心情を浄化するには」

1. 神様の直接主管とは

人間の「表情」は世界万国共通。言葉が通じなくても相手の「表情」を見れば、相手がどんな感情を持っているかがわかります。このようにどんな人間であっても「喜怒哀楽」の感情を持っています。実はこの「喜怒哀楽」はもともと神様の中にあるもので、人間は神様に似せて創造されたので、人間は本性として「喜怒哀楽」の感情を持っています。人間の持っている「喜怒哀楽」の感情は、神様の「喜怒哀楽」の感情に繋がるようになっていきます。

基元節以降は、本然の世界に移ってきました。これを「直接主管圏時代」といいます。直接主管とは、神様を中心とした四位基台を造成して、神様の心情と一つとなり、善の生活をする事です。**四大心情を体験・経験しながら、神様の心情に通じる私の心情を完成することです。(実体完成) 神様と心情共鳴体になることです。**

神様はどこにおられるのでしょうか。私の良心の中心に「本心」があります。この「本心」に神が臨在されます。神様はこの「本心」を通じて、人間を導こうとされます。神様の主管は「心情主管」です。神様が実体の姿で現れて「ああしなさい、こうしなさい」と主管されるものではありません。「直接主管」は「心情主管」です。神は心情で主管されます。

「祈り」は言葉を通して、神様の心情に通じることです。この「神様の心情に通じる」という事が重要です。神様の心情共鳴体になる事が重要です。

2. 浄化精誠とは

「浄化精誠」とは、**4つの言葉 ①「ごめんなさい」 ②許して下さい ③「ありがとう」 ④「愛しています」**を唱えながら、自分の心情を高く(深く)すること、整理する事、洗い流す事です。創造本然の心情に戻るための方法です。墮落性や悪い心情があれば、洗い流すための方法です。

まず、なぜ「ごめんなさい」「許して下さい」と言うのでしょうか。私達が神様にお会いする時の事を考えましょう。私達は「第4次アダム圏時代」の「アダム」「エバ」の立場です。かつて「第1アダム・エバ」は墮落によって神様の心情を傷つけましたね。それを知っている私達は神様にお会いした時にまず出てくる言葉は「ごめんなさい」「許して下さい」ではないでしょうか。神様は6000年の間、メシヤ以外にそのように言う人間に出会った事はありませんでした。墮落の後裔として生まれた私たちが、天の父母様に真の御父母様に、心を込めて「ごめんなさい」「許して下さい」を言います。そして、このような私達を救いの道に導いて下さった事に「ありがとうございます」、さらに「愛しています」と言うのではないのでしょうか。

①感情の自覚をする。

まず体の力を抜いて深呼吸します。そしてまず身近な人に対する自分の感情を自覚してみましょう。私は神様の目で神様の心情で夫に対し、妻に対し、子供に対し、親に対して見つめ接して来たのでしょうか。そう考えた時に自分が神様の立場で接して来られなかった事に対し「ごめんなさい」「許して下さい」を、また神様の立場で「ありがとう」「愛しています」を言ってみましょう。

今までの自分の姿を採点してみましょう。神様の立場で接する事が出来た場合は10点(満点)としたら、今までの自分は何点だったのでしょうか。5点、3点、1点、あるいはマイナス…。今までの自分の姿に気付き「悔い改め」の心情が出てくるでしょう。

②悔い改めには責任行動(変化)が伴います。悔い改めと共に私自身が変化しなければなりません。そのための努力が必要です。その努力した内容を礼拝の時に神様に報告したら最高の礼拝になります。

私達は夫婦であっても「育った環境」やその中で「受けた感情」「感じた感情」が違うため、同じ現象に出会っても出てくる感情が違います。例えばある夫婦に子供が生まれても、夫はかつて自分が親から怒られながら育ったので、子供に対し「愛したい」という感情が湧いてこない場合もあります。むしろ「怒り(しかり)ながら育

てないと」という思いがまず湧いてくるかもしれません。また妻はとても親から愛されて育ったので「愛さないと」と言う思いがまず湧いてくるかもしれません。**この感情を、その人の中にある「基本感情」あるいは「超感情」あるいは「メタエモーション」と言います。**この感情は墮落性ではなく、その人が基本的として持っている感情なので夫婦はひとたびお互いの基本感情を認定しなければなりません。その上で、各自自分の持っている「基本感情」が間違っているとすれば、それを直さなければなりません。この基本感情は変化が可能です。死ぬまで変化し続けます。**この基本感情の変化のために浄化精誠が必要になります。**

3. 浄化精誠をする目的

①**神様と一問一答の生活、祈禱と精誠の生活**（基元節以降の神様直接主管圏時代の生活）ができるようになるために浄化精誠をします。

②**良心を育てるため。**浄化精誠を通じて自分の良心を育てなければなりません。良心の基準は、育った環境や形成された基本感情により、人によって様々異なります。この良心の基準を高め本心と一致させる必要があります。本心は神様の心ですから、本心と一致すれば、この良心は両親に優り、先生に優り、神様に優るようになります。逆に人間も悪を重ねた場合どんどん良心基準が下がり、初めは良心の呵責を感じながらも、やがては悪を行っても呵責を感じなくなる場合もあります。

③**心情共鳴体生活をするため。**今からは神様の心情の基準で夫に妻に子供に話しかけてみましょう。その基準で万物に対してみましよう。神様の目を見て、神様の体で話しかけましよう。そのように実践してみましよう。そして神様と共に喜びを感じ、悲しみも感じ、私たちが生きているこの肉身生活の間に、神様の心情と一致化させる訓練をしなければなりません。

④**墮落性を脱ぎ、創造目的を完成するため。**墮落の習慣性を洗い流す、これが浄化精誠です。そして創造本性を開発しなければなりません。私達は創造本性を開発し、創造目的を完成させなければなりません。

「個性完成」とは私の心情が神様の心情になる事です。神様は心情的な神様ですが、私達も神格的な人間にならなければなりません。私達の基本感情はまだ未熟ですので、生活圏の中で神様の心情基準で様々な体験・経験して、これを育てなければなりません。そのために浄化精誠が必要になります。この基本感情を成長させ、完成させる事が個性完成です。

「家庭完成」とは関係性の完成です。神様との関係性、夫婦の関係性、兄弟の関係性、親子の関係性、三代圏の関係性。この関係性を神様の心情の基準で結ぶ事が出来るかどうかです。本然の関係性を持てるように浄化精誠をしなければなりません。必死で努力して、墮落性を洗い流し、地上にいる間に本然の四大心情を体験・経験して心情文化世界を地上に創造しなければなりません。

「万物主管」とは、神様の心情基準で万物との関係性を築くことです。万物に対する真の主人にならなければなりません。